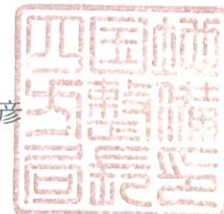


公共工事等における新技術活用システム
事後評価結果通知書

国四整施企第57号
令和3年3月17日

株式会社ヤマウ
代表取締役社長 小嶺 啓藏 殿

国土交通省
四国地方整備局長 丹羽 克彦



平成23年 4月15日付をもって申請のありました技術について、新技術活用評価
会議における評価の結果を様式V-5のとおり通知します。なお、評価結果については
NETISに掲載します。

記

1. 技術名称 : FAボックス
2. NETIS登録番号 : QS-110006-VR
3. 評価結果 : 様式V-5のとおり
4. 継続調査等の必要性について : 継続調査等を必要としない。
5. その他 : この結果に基づき、当該技術のNETIS登録番号・情報種別記号は
「-VE」に変更され、掲載期限が平成24年4月1日から起算して10年を経過した
日まで延長されます。
また、今後の活用効果調査および事後評価は実施されません。

異議申し立てについて

上記について異議がある場合は、事後評価結果を通知した日から起算して10日以内に
四国地方整備局長あてに異議理由を明示した書面を提出することにより、異議申し立てを
行うことができます。

(提出先) 四国地方整備局 新技術活用評価会議事務局

活用効果評価結果

令和2年度

四国地方整備局 / 新技術活用評価会議

NETIS情報	開発目標	省人化、品質の向上																																	
	新技術登録番号	QS-110006-VR	区分	製品			有用な技術の位置づけ	活用促進技術																											
	分類	共通工 - ボックスカルバート工 - 躯体工																																	
	新技術名	FA ボックス																																	
	比較する従来技術(従来工法)	現場打ちボックスカルバート																																	
新技術の概要及び特徴	大断面ボックスカルバートを構築する頂版スラブ及び側壁を3分割した製品であり、プレキャスト部材の接合部及び底板部を現場打ちコンクリートとすることにより一体化を図ることが出来る。																																		
活用効果評価	所見	<ul style="list-style-type: none"> 製品が高価だが工程の短縮や作業人員の削減により、経済性は同程度となる。 ボックスカルバートを構築する部材の大部分をプレキャスト化することにより、型枠組立、支保工設置、コンクリート養生期間等の削減が図れるため、工程に極めて優れる。 工場製作であるため、品質出来形の精度向上及び管理項目の減少により、品質・出来形に優れる。 支保工等仮設の削減が図れるため、施工性に優れる。 建設廃材やコンクリート打設に伴うアルカリ性排水の削減が図れるため、環境に優れる。 										<p>項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較</p> <p>参考</p> <p>— 従来技術(従来工法) — 新技術</p>																							
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	活用効果調査の結果、経済性において活用現場の違いによる差異はあるものの、他の項目については大きな差異は認められず、また前回評価と同様の評価傾向であることから、情報種別記号を「-VE」とし、今後の活用効果調査、事後評価は実施しないものとする。																																	
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 製品が大型且つ重量物であるため、クレーンの使用、各種ヤード及び運搬方法について条件確認が必要。 長期的な耐久性等については定期点検にて確認することが望ましい。 																																	
	活用効果調査表における改良点及び要望	特になし																																	
活用効果調査結果	対象工事	1	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		2	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		3	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		4	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		5	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		6	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		7	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		8	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		9	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		10	道路改良工事	従来技術: 現場打ちボックスカルバート										活用型: 発注者指定型																					
		11												活用型: 発注者指定型																					
		12												活用型: 発注者指定型																					
		13												活用型: 発注者指定型																					
		14												活用型: 発注者指定型																					
		15												活用型: 発注者指定型																					
		16												活用型: 発注者指定型																					
		17												活用型: 発注者指定型																					
		18												活用型: 発注者指定型																					
		19												活用型: 発注者指定型																					
		20												活用型: 発注者指定型																					
		活用効果調査結果	施工時評価	項目	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)								
経済性	H31			H31	H31	H31	H30	H29	H29	H28	H27														C	C									
工程				A	B	A	A	A	A	B	B	A	A												A	C									
品質・出来形				B	B	A	A	B	A	B	B	B	B												B	C									
安全性				B	B	C	C	A	C	C	C	B	C												C	C									
施工性				A	A	A	A	B	B	B	B	B	B												B	C									
環境				B	A	B	B	B	C	B	C	B	B												B	C									
その他				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-												-	-									
総合評価点				B	B	B	B	B	B	B	B	B	B												B	C									
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか				今後も是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用することもある			技術の改良を強く望む			各項目における判定																			
		55%			35%			10%			0%			<table border="1"> <tr> <td>4.5点以上</td> <td>5.0点以下</td> <td>従来技術より極めて優れる</td> </tr> <tr> <td>3.5点以上</td> <td>4.5点未満</td> <td>従来技術より優れる</td> </tr> <tr> <td>2.5点以上</td> <td>3.5点未満</td> <td>従来技術と同等</td> </tr> <tr> <td>1.0点以上</td> <td>2.5点未満</td> <td>従来技術より劣る</td> </tr> </table>										4.5点以上	5.0点以下	従来技術より極めて優れる	3.5点以上	4.5点未満	従来技術より優れる	2.5点以上	3.5点未満	従来技術と同等	1.0点以上	2.5点未満	従来技術より劣る
4.5点以上	5.0点以下	従来技術より極めて優れる																																	
3.5点以上	4.5点未満	従来技術より優れる																																	
2.5点以上	3.5点未満	従来技術と同等																																	
1.0点以上	2.5点未満	従来技術より劣る																																	
追跡調査の必要性	なし																																		
追跡調査	なし																																		

活用促進技術とは？

■なぜ活用促進技術を指定するか？

各地方整備局等の新技術活用評価会議では、優れた技術の活用促進を図っていくため、「活用促進技術」を指定します。

■選考方法は？

活用促進技術は、活用効果評価において安定性が確認されている技術のうちから、特定の性能又は機能が著しく優れている技術、特定の地域のみで普及しており全国的に普及することが有益と判断される技術等に該当する技術から選考されます。

■活用促進技術に指定されると？

- ・ NETIS（新技術情報提供システム）で指定されたことを公表します。
- ・ 公表されることで申請者（技術開発者）には、インセンティブがあり、また、指定された技術は、『〇〇年度 活用促進技術（新技術活用評価会議（〇〇整備局））』という名称を使用できます。
- ・ 本省、地方整備局等は、暫定歩掛、特記仕様書作成例等を作成するとともに、計画的に当該技術の活用の促進を図っていきます。
また、発注事務所は、発注時に特記仕様書で技術を指定する、発注者指定型等により活用に努めていきます。
- ・ 入札参加者が指定された技術を、総合評価方式における技術提案で提案した場合には、その審査において他の技術を提案した場合よりも高く評価します。
- ・ また、その工事を請け負った場合には、工事成績評定においても、他の技術を提案した場合よりも高く加点します。
なお、工事成績評定の加点措置は、総合評価方式の技術提案以外でも、工事請負契約後の提案であっても、加点措置を行います。